

原田 馨先生を偲んで

藤井 紀子

京都大学原子炉実験所 放射線生命科学研究部門

生命の起原および進化学会で会長をされ、本学会に多大な貢献をされた筑波大学名誉教授の原田馨先生は2010年11月20日に他界されました。享年83歳でした。原田馨先生は1927年大阪に生まれ、大阪大学理学部化学科、同大学院理学研究科を経て、1956年に渡米しました。フロリダ州立大学海洋研究所、マイアミ大学においてSidney Fox教授のもとで「プロテノイドミクロスフェア」の研究、アポロが採取した月の石のアミノ酸分析、不斉合成の研究などをされました。その後、1974年に筑波大学化学系に教授として着任され、1991年筑波大学を退官されるまで、光学分割、不斉合成、放電やプラズマによるアミノ酸の前生物的合成など化学進化研究の第一人者として活躍され、多くの学生を指導されました。私は1980年12月に原田研究室に採用され、約10年間ご指導を賜りました。当時、原田研究室では上記に挙げた研究に加えて隕石中の有機物の分析、光学異性体分析、化石試料中の年代測定等、多様な研究が行われていました。私のライフワークとなった老化タンパク質中のD-アミノ酸の研究は、まさに、生命の起原と進化の研究分野における光学異性体の問題から派生した研究であり、生化学の研究室にだけ身を置いていたら決して拓けなかった分野でした。芽が出るかどうか全く分からない新しい研究を実行するにあたり先生は常に暖かく見守って励ましてくださいました。実験化学においては何よりも手を動かすことが大事というのが先生の持論で、既成概念と異なる結果が出たときこそチャンスと思えということを繰り返し言っておられました。今、私は学生を教える立場にありますが、先生の持論をそのまま受け継いで指導します。原田先生は化学だけではなく大変幅広い知識をお持ちで研究室の中でも科学史、歴史、文学の話、アメリカに長く滞在された体験から日本の国家のあり方などについても大変示唆に富むお話をよくしてくださいました。出会いから今日まで約30年間、化学だけでなく人生全般にわたってご指導を賜りました。もっと、いろいろ教えを請いたいことがありましたのに大変残念に思います。先生のご冥福を心からお祈りします。